
世界の謎は時を超えて

Y2

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

世界の謎は時を超えて

【Nコード】

N3795Y

【作者名】

Y2

【あらすじ】

怠惰に生きてきたカナンは学校で出会った一人の少女の言葉から王国の謎に迫っていく。魔法の世界の真実に近づくに連れそれは世界を巻き込む大きな物語へと発展していく。

…予定、初めて小説を書くので妄想たっぷり、文章下手なのは勘弁して下さい。ファンタジーたっぷりの物語になる予定なので良ければ読んでみてください。

はじまりはなんの因果から？

いつからだろうか。

ただ時の流れに身をまかせ世界の儂さにすべてを諦め惰性に生きるようになったのは。

何時かの昔、子供の日々はきつとこんなことは考えなかっただろう、そしてこれからもこんなことを考えるとは思いつきもなかっただろう。

だから俺は今が嫌いだ。こんなくだらない事を考えるつまらない人間となってしまうた今より、笑い合つて無限の未来を夢見ていた子供の頃に帰りたいたいと本気で願っている。これはだれしもが一度は考えることではないだろうか。

問題なのは俺がこれを結構本気で望んでいることだ。

さてこんなくだらないことを考えている間に登校時間となつていた。

俺の名前はカナン。苗字を含めるとまたそれなりに長い名前となつてしまつがそんなこと誰も知りたがらないだろう。だから以下省略、聞いたつて覚えられないだろうしな。

そんなこんなでいそいそと準備を終えた俺は学校へと向かうのだ。俺の通っている学校の名前は王立テンショー魔術院付属高等学校という。

何でもこの国が出きた当初から存在する由緒ある学校らしい。そして俺はどういう因果かこの国一の名門校、別名「貴族の庭」と呼ばれる学校に通っているのだった。

別に俺自身が貴族の子弟だというのではない。いや厳密に言えば今は違つというのが正しい。

爺さまいわく「我が家は元々は貴族の家柄じゃつた。我が家系の祖は王に直接仕える誇りある御方であり我が祖先も国を守り続けていたのじゃ。しかし時の流れは残酷にて、少しずつ力を失つていき

我が代からはとうとう貴族の称号をも剥奪されてしまったのじゃ。らしい。」

正直にいおう……そんなことしらねえよ！毎回毎回酒を呑むたびにそう愚痴られても知った事じゃない。あんたの働きが悪かったからやめさせられたんだろ。何百回その話を聞かせれば気がすむんだ、その話のたびに暗く沈む家の空気を考える！つと悪い悪い話が多かった。つまりだ、今は貴族ではないがまあ、自分で言うのも何だが俺は結構由緒ある家系の生まれみたいなんだわ、これが。

それじゃなんで、そんな由緒ある家系が貴族をやめさせられたのか興味があつて一度調べたことがあるが、これこそホントの謎だった。当時は国中が大騒ぎしたらしい爺さまたちも王に直接会つて話を聞こうとしたらしいがすべてが無駄に終わったらしい。これは国一番の謎だとも囁かれたとかいないとか。……うん、どうでもいよいよね、こんなこと。今を生きる俺には全く関係のない話だ。どうでもよすぎて涙が出てくる。

かなり話が脱線してしまった。テンシヨ―魔術院付属高等学校は基本的に貴族のそれも頭のよい子弟しか通うことができない。

入学審査でふさわしくないものは遠慮なくはじかれるからだ。

俺は家柄は……いいのだろうが貴族ではないし、頭も人並みはあると思う、いやあるはず、あつて欲しい。……がどんなに謙虚に考えてもテンシヨ―魔術院付属高等学校に通えるほどの頭であるはずがないのだ。

そんな俺が何故にテンシヨ―魔術院付属高等学校に通つてるかというと爺さまがうるさかったのだ。一応言っておくと爺さまはここを卒業している。しかし父様はここに入学出来なかったらしい。

だから爺さまは俺を是が非でもここに入れようとしているのだ。余りにうるさかったので俺も諦めて洒落のつもりで、ダチとの話のネタにと安くはないこの入学試験を受けたのだった。

そして結果が、まあどういわけか合格しちゃったわけだ。その時の様子は三者三様であった。

爺さまは発狂しているのかと見間違う様子で叫び喜んでいたり、父様は顔を真っ青にしこれにはなにかの間違いではないのかと学校に直接問いただしに家から出ていった。

そして肝心の俺はただただ、呆然としていた。

そりゃそうだろう。努力をし不可能を覆したのならば喜びようがあるのだが、その時の俺は最初から諦めていて決して十分といえるほど勉強しなかったし、テストの出来も半分あつてればいいかなという具合だったのだ。

俺自身も何かの間違いだと信じて疑わなかったし、実際そうで会って欲しかった。

しかし現実とはうまくいかない物で帰ってきた父様からの返事は「間違いなく合格だと言われた…」だった。

そして後はなし崩しのに決まっていき、めでたく俺はテンション魔術院付属高等学校に入学が決まったのである。

そしてこの時の決断が冒頭の俺の願いを生み出し、激しい後悔を生み出した。

えっどうしてかって？わかるだろ、貴族様の中に一人ぽつんと平民がいるとどうなるかぐらい

…はあゝ鬱だ…

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3795y/>

世界の謎は時を超えて

2011年11月9日21時15分発行